

# CLUB NEWS

WEEKLY  
REPORT  
YAMAGATA  
CENTRAL



国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ

30周年記念事業を終えて気持ちを新たに!

vol.  
1355

2023・2024  
MEETING

〒990-0039 山形市香澄町2-9-21 (株)メコム気付 事務所携帯TEL 090-1445-4120 FAX(023)642-1618

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形



- 会長 長玉ノ井憲史
- 会長エレクト 長谷川 淳
- 副会長 本間 雅之
- 直前会長 石山 徳昭
- クラブ管理運営 佐藤 太
- 職業奉仕 相川 博昭
- 社会奉仕 丹野 秀樹
- 青少年奉仕 伊藤 和子
- 国際奉仕 深瀬 隆志
- 幹事 高橋 恭治
- 副幹事 小林 敏郎
- 会計 神保 綾
- S A A 鈴木 陽子

国際ロータリー会長 コンドルマツカシ(スコットランド)  
第2800地区ガバナー 伊藤 三之(山形北)  
第5ブロックガバナー補佐 吉田 義尚(山形東)



世界に希望を生み出そう

- ◆日時/2024.5.14 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/国歌・我等の生業
- ◆ビジター/山形大学 基盤教育機構 教授 尤 銘煌氏 山形大学 留学生 アンニヤさん(ウクライナ出身)

## 会長挨拶



皆さん、こんにちは、最初に本日のゲストをご紹介します。山形大学 基盤教育機構 教授 尤 銘煌様そして留学生で山大学生 ウクライナ出身のアンニヤさんです。後程、尤教授には卓話をそしてアンニヤさんにはご挨拶をお願いしておりますのでよろしくお願ひします。

昨日から鹿児島城西ロータリークラブの方に金子会員、小林会員、長橋会員、佐藤会員、高橋幹事の5名がおかけ参り行っておりますので本日の例会出席者がいつもより少なくなっております。

さて先週の11、12日に山形の天童ホテルで国際ロータリークラブ日本青少年交換研究会が開かれ私は11日の本会議に出席し、本会議では来日留学生の日本語によるスピーチコンテストがあり全国から24名の留学の高校生スピーチを聞くことができました。アメリカ、台湾、ヨーロッパ、ブラジル、カナダなど世界中から来られ、全員が日本留学初めての子ばかりでしかも、在日1年目で日本語でスピーチを発表していました。スピーチコンテストのタイトルは自由でそれぞれに日

本の政治や文化、習慣、旅行と日本について自分なりに感じたことをお話をしていました。私が感心したのはスピーチの内容も大変面白く聞くことができましたが、何より驚いたのは来日してたった一年くらいで日本語が大変上手に話することができるのに感心しました。どうしたらそんな短期間で上手に話せるのか聞きたいくらい上手でした。私なんか何十年たってもいまだ英語すら話せないし、この会長挨拶でさえうまく話せてないくらい悔しい思いをしております。今更遅いかもかもしれませんが若い人を見習って語学の勉強に少しこれを機に取り組んでみようかと思ひます。

また、今年はすでに3月23、24日に全国ロータリーアクト研修会と今回の日本青少年交換研修会山形会議と2つの全国大会があり全国大会が2つも開催されるといふ2800地区RCとして大変忙しいロータリー活動だったように思われます。この中央RC、2800地区RCと私としては大変忙しい有意義なロータリー活動で終わりそうです。私の任期もあと45日になってきました。最後まで気を抜かず頑張っていきたいと思ひます。

以上挨拶とさせていただきます。本日もよろしくお願ひいたします。

## 本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	35名	—	16名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



## ゲスト卓話

# ウクライナ避難民 留学生の受け入れに ついて

山形大学 基盤教育機構 教授 尤 銘煌氏

**ウクライナ避難留学生の受け入れについて**

山形大学 基盤教育院 尤 銘煌(ユウ ミンホウ)

**Serviced in Military in a remote island, 1985**

馬相模守を記念して

**ウクライナ避難留学生の受け入れについて**

- 2022.2.24 ロシアの侵攻
- 2022.3 ~6 ウクライナ避難学生を受入方法を探す
- 2022.7 プログラム設立
- 2022.8-9/30 公募
- 2022.10.31 結果発表
- 2023.2~3 3名学生を受け入れた
- 2023.5 ウクライナの大学と交流協定を締結した
- 2023.6 ~ 3名学生の1年再延長、来年度に2名を受け入れ方向を決めた

**問題点:**

- 予算
- 語学
- どのくらい滞在
- どうやって公募
- どうやって審査
- どうやってVISA申請
- どうやって日本財団&山形県に財政の支援申請
- 受け入れた学生の未来計画
- 来年度も継続受け入れ

**意義&メリット:**

- ★世界平和に貢献することによって大学の知名度及び信頼度が高められる
- ★ウクライナ避難民学生が日本人学生及び地域の人々と交流することによって戦争の悲惨さ・怖さ、平和の大事さを再認識させる教育機会が得られる
- ★世界平和構築に貢献できる人材の育成ができる
- ★人道的精神に基づいてウクライナ避難民学生の受け入れは、大学の立派な教育である世界平和に繋がる。
- ★ウクライナと日本の相互理解促進に向けた機会を提供する
- ★学長の平和声明が行動に伴うことにより強く信頼される
- ★在学生の大学に対する誇りが高まる
- ★山形県・山形市及び民間団体（ロータリークラブ等）との連携で実践効果を増進する。
- ★姉妹協定校にウクライナの大学がないので、留学生の多様化に繋がる。
- ★留学生同士（特にロシア人学生と）に対立ではなく、相互理解と友情が生まれ、共生の基盤となる次世代の形成を促進する。

**デメリット:**

- ★ウクライナ避難民学生だけを特別優遇することによって他外国留学生に不公平さを生ずる。
- ★1年だけの受け入れは、単位を頑張って取っても得た就職・進学にとって中途半端で終わることが心配される。
- ★学位まで取ることができない。
- ★（現時点で）18-60歳の男子は国外に出られないため、女子学生のみが対象となる。

**想定されること及び課題:**

- ★母国の状況、母国に残る家族への心配、戦争での恐怖体験、日本での孤立による精神的不安定が予想されるので、メンタルケアが必要。
- ★地元のマスコミがウクライナ避難民学生の教材に殺到。
- ★ウクライナとロシアの学生が同じ教室で授業を受けること、生活することに対する配慮（学生、教員）について検討が必要。
- ★入国のためのビザ取得の手続きについて支援が必要。
- ★一年後の世界状況が不明なので、プログラム終了後の予定が不確定。
- ★ウクライナ語による相談窓口（相談支援所）との連携が必要。
- ★ウクライナの人たちが祖国に戻るようになるまでには時間がかかることも予想され、長期化に備えた支援も今後の課題。
- ★これを機にウクライナ以外の避難民学生への支援の輪も広がってほしい。





オピニオン

マルチアンブル

山形大のウクライナ人留学生

論説委員 佐々木亨

ロシアのウクライナ侵攻が始まり1年10カ月になるが、戦火はいっこうにやむ気配がない。山形大にウクライナからの留学生がいると聞いてから、母国の現状に心を痛める若者の姿を想像してきた。そのつらさほどはどうか、と思いを巡らせながら同大に連絡するとサポート役の教授を紹介して留学生2人に直接、話を聞くことができた。その1人、アナスタシア・マシヤノウスカさん(20)は、普段とは違った話し相手との会話が新鮮だったように取材後に「楽しかったです」と笑顔で返してくれた。

山形大への留学に道を開いたのは台湾出身の尤緒雄・同大基礎教育院教授(60)だった。ロシアのウクライナ侵攻を知り、現地の苦境に思いを寄せた。教育者としてできることは何か。同大の上層部に国外避難を希望する学生を受け入れるよう提言した。

受け入れには予算の確保、学生の公費や審査の方法、入国手続きなど課題は多かった。学生の進路に関しても責任が伴う。尤教授は奨学生として日本、米国で学んだ経験があり、その人脈を生かし資金面で本県の国際ロータリー第2800地区の協力を取り付けた。日本財団の財政支援や県のサポートも活用した。

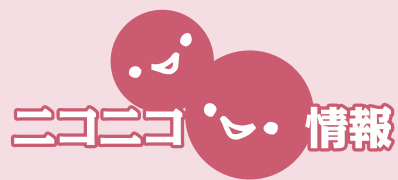
学問に励めるという幸せ

尤教授は「ウクライナだけでなく、政情不安のミャンマーから留学している学生もいる。こうした現実を県民に知ってほしい」と語る。

好きな学問に熱中できる自由への脅威、それは嘗てまでもなく戦争だ。自身を守るという切迫した闘いがなく日本の学生生活を描いて「これが普通なのかもしれないけれど、幸せ過ぎる気がする」と語った。平和や自由の価値は、その中にいると見えにくくなってしまう。記者自身も含めて、印象に残った取材後の笑顔とともに、あの言葉を思い出している。

するウクライナの大学のオンライン講義と、山形で日本文化への理解を深めるプログラムを企画。テルティシユナさんは6月に卒業した後、山大に通いながら市内の英会話教室で講師を務める。

「大変ではないか」と聞いてみた。すると「忙しいと認めた上でこう続けた。でも私たちはこれまで勉強を続けるために闘わなければならなかった」



玉ノ井憲史・相川博昭・長谷川淳・青柳紀子/ユウミンホアン先生、今日は卓話ありがとうございました。また留学生としてウクライナからいらっしゃっているアンニヤさん、様々なプレッシャー等あるとは思いますが、平和の親善大使としてこれから活躍されることをご祈念いたします。



山形大学 留学生  
アンニヤさん(ウクライナ出身)



5月 会員誕生・創立企業日

- 企業創立記念日
- 佐藤吉信 (株)カネキチ材木店
  - 奥山 宏 (株)奥山電気工事
  - 長谷川淳 (株)光コーポレーション
  - 小泉俊哉 (株)小泉デザイン事務所